

Level4_1: 私^{わたし}と小鳥^{ことり}と鈴^{すず}と (金子^{かねこ}みすず)

私^{わたし}が両手^{りょうて}をひろげても

お空^{そら}はちっとも飛^とべないが

飛^とべる小鳥^{ことり}は私^{わたし}のように

地面^{じめん}を速^{はや}く走^{はし}れない

私^{わたし}が体^{からだ}をゆすっても

きれいな音^{おと}はでないけど

あの鳴^なる鈴^{すず}は私^{わたし}のように

たくさんな唄^{うた}は知^しらないよ

鈴^{すず}と、小鳥^{ことり}と、それから私^{わたし}、

みんなちがって、みんないい

Level4-2: 彼は (千家元暦)

かれ
彼はどこにでも居る。

せいめい ひ
生命の火はどこにでも居る。

どこ
何処にでもめぐり、何処にでも隠れて居る。

き
気がつけば彼は露骨だ。

かれ みず なか さかな みず なか
彼は水の中にもいる。魚 となって水の中にいる

び きんぎょ びん なか い わら なか なみだ
美しい金魚 となって瓶の中にも居る。笑いの中にも 涙の中にも

かれ ひとびと あめ なか やみ なか
彼は人々がいやがる雨の中にも、闇の中にもいる。

き なか おんな こども いぬ ねこ なか
木の中にもいる。女 や子供や犬や猫の中にもいる。

み
見よ、どこにでも彼はいる

ろこつ かれ
露骨なる彼は。

Level4-3: お菓子 (水谷まさる)

わたしがもしも王子なら

家来を呼んで云いつけよう。

子供をみんなつれて来て

おいしいお菓子を分けてやれ。

二つのお手にのらぬほど

たくさんたくさん分けてやれ。

けれど、わたしは王子じゃない

お菓子屋の店の前に立ち、

今日もお菓子に見とれては

そういうことを思うだけ。